

富士山と山梨の旅 2021



2021年12月

旅のチカラ研究所 植木圭二

富士山周辺を巡り、山梨県の石和温泉に2泊する旅を友人たちと行ってきた。今回の旅のきっかけは自治体が行っている宿泊費の補助制度だったが、訳あってプランニングに力を注ぐことになり有意義な旅になった。

序章 旅の企画

■旅のプランニング

今回の旅のきっかけは石和温泉がある山梨県笛吹市で実施している宿泊割引で、ひとり1泊最大1万円補助される。これを使わない手がないということから旅の企画を始めた。

まずは旅のテーマを決める。1つ目は世界遺産の富士山を巡ること、そして2つ目は宿泊割引を使って石和温泉を満喫すること、3つ目は山梨県の歴史と現在と未来を感じることだ。それらの3つのテーマを達成するべく具体的なプランニングすることになった。

その企画に賛同し参加した私以外3人のメンバーを紹介しておこう。私とは地球一周の船旅で知り合った私が師と仰ぐ御年87才の“鳩（にゅう）さん”、その彼のプール友達の“ミーサ”は4か国語を操り芸術方面にも多彩な才女、そして私の高校時代のサークル仲間の“チーマ”も芸術好きで地域活動にも熱心なアクティブ・レディだ。ひよんな繋がりでこの4人になったので、私は今回の旅の連絡に「友達の友達は友達」と名付けたLINEグループを作った。

これだけの凄いメンバーなのでプランニングする私も力が入る。そして彼らもまた私が最近、世界遺産検定1級と温泉ソムリエの資格を取得したことを知っており、私のプランニングに大いに期待しているようだ。

その期待を背負いながら「友達の友達は友達」の旅が始まろうとしている。私の運転する車は彼らに乗せて、富士山の南西にある静岡県富士宮市を目指している。

第一章 富士山

■世界遺産

富士山がユネスコの世界遺産に登録されていることは多くの人が知るところだが、これが自然遺産ではなく文化遺産になっていることは意外に知られていない。

当初富士山は自然遺産と文化遺産の両方の要素を持つ複合遺産を目指していたが、自然遺産としては早々に諦めた。その理由は世界各地の山々に比べると富士山の形や火山活動などはそれほど珍しくなく、さらにゴミ問題が深刻で自然遺産としてはハードルが高かった。私は日本で複合遺産になるとしたら富士山しかないと思っていて、むしろ文化遺産の方が難しいのではないかと予想していたのでいささかショックを受けた。

私の予想に反して、富士山は 2013 年に文化遺産として世界遺産に登録された。それゆえ登録名称は「富士山-信仰の対象と芸術の源泉」となっている。今回の旅はこの“信仰の対象”という文言に着目する。

■浅間神社

静岡県の富士宮市内、とは言っても富士山の麓の斜面にある「山宮浅間神社」に到着する。

富士山は大昔から頻繁に噴火を繰り返しており、奈良時代以前は富士山そのものを神聖視し、噴火を鎮めるためにこの山宮浅間神社が造られたとされる。

実に興味深い神社で、この神社には本殿がない。富士山そのものがご神体なので拝殿があるだけで、拝殿から富士山を拝む“遥拝”の形をとっている。しかしその拝殿といっても、石の柵があるだけだ。御大の鳩さんも「初めて見る形態の神社だ」と驚いている。その言葉を聞いて私は心の中でガッツポーズをする。

鳥居から拝殿に向かう道には神幸(神が他所に行くこと)の際に鉾を立てる石が置かれており、これも珍しい。私たちは遥拝をするために拝殿の前に立つが、残念ながら雲に隠れて富士山は見えない。晴れていればこういう景色になるという案内看板の写真を見ながら、心眼で富士山を見て拝む。



【鳥居から拝殿までの道にある鉾立石】



【拝殿から富士山を望む 雲で見えず合成した】

富士宮市の市街地にある「富士山本宮浅間神社」にやって来る。

世界遺産検定のテキストによれば、この神社は 806 年に平城天皇の命で坂上田村麻呂が富士山の噴火を鎮めるために先ほど行った山宮浅間神社から分祠して建立した。浅間大神（木花之佐久夜毘売命：このはなのさくやひめのみこと）を祀って、国内各地の浅間神社の総本山になっている。由緒正しい神社らしく、桜門という立派な門があり、境内には源頼朝が流鏝馬（やぶさめ）を奉納した桜の馬場、武田信玄自らが植えたしだれ桜の 2 世の桜の樹、さらに徳川家康が寄進したという本殿は 2 階建ての立派な造りをしている。

この神社を参拝すれば富士山の頂上に登ったようなものだと言われている。その理由は富士山の頂上はこの神社の所有地になっており、頂上に奥宮もあるからだ。これも徳川家康が、この神社が頂上を所有することを認めたためだという。

それほど昔から一目置かれていた神社を、同行の 3 人は知らなかったようで、驚きを隠せないようだ。そして私は再びガッツポーズだ。



【富士山本宮浅間神社の桜門】



【徳川家康が寄進した 2 階建ての本殿】

次は「村山浅間神社」にやって来る。境内には大きなイチョウの樹があつて私たちが迎えてくれる。

噴火が沈静化した 11 世紀頃から富士山に登るといふ信仰、つまり“登拝”が盛んになり、登山巡礼で霊力を獲得し擬死再生を成しとげようとする“富士講”と呼ばれる独自の文化的伝統が生まれた。その富士講の起点になったのがこの村山浅間神社だ。

以上の 3 つの浅間神社は全て世界遺産の構成資産になっている。

■修験道、修行の地

富士講の開祖は修験行者の長谷川角行で、彼は修行により覚醒した。仏教でいえば悟りを開いたことになるのだろう。その長谷川角行が修行し入滅したとされる「人穴富士講遺跡」にやって来る。

この遺跡は「人穴浅間神社」の境内にあり、遺跡といっても実態は洞穴で、残念ながら現在は入口が施錠されて中には入れない。説明看板によれば洞穴の総延長は 83m で、中央付近に直径約 5m の岩柱があるという。

神社の境内には多数の墓があるが、案内看板には墓とは書いておらず供養塔とか記念碑などと表現されている。しかしどう見ても墓だ。神社に墓とは珍しい組み合わせだと、チームが驚いている。



【人穴浅間神社境内 右奥に人穴がある】



【人穴内部の写真 説明看板より】

人穴富士講遺跡から程近いところに有名な「白糸の滝」があり、立ち寄る。

白糸の滝と呼ばれる滝は日本に多数あるが、この白糸の滝が一番大きく、見栄えも最も良い。それは富士山の豊富な地下水が、高さ 20m、幅 150mの湾曲した絶壁から大小数百の滝になって流れ落ちているからで、その名のように数百本もの白い糸をたらしめた光景になり、ちょっと幻想的な景色を見せてくれる。とにかく水量が半端でない、これが富士山の雪解け水や雨水が地中に染み込んで何年もかけて山体を通過してきたのだから、とてもご利益がありそうな気になる。

そのご利益を求めてなのか分からないが、この滝は長谷川角行が修行した場所で、そのためこの白糸の滝も人穴富士講遺跡も世界遺産の構成資産になっている。決して自然が雄大とか、景色が素晴らしいという理由ではない。何しろ文化遺産なのだから。



【白糸の滝】

湧水ついでに観光名所で有名な「忍海八海」にやって来る。

今回の旅にこの忍海八海を加えるか、少し悩んだがミーサが行ったことがないということなので加えた。悩んだ理由は、私には何故ここが文化遺産の構成資産になったのか今ひとつピンと来ていなかった。

しかしながら現地に来て説明看板を読むと、富士講の人々が富士登山の際にここ忍野八海にある8つの湧水池でみそぎを行なったとされている。

それにしても真夏ならいいが、今の季節では冷たくてとても入れそうにない。

湧いている水は、水量もさることながら水質に神秘的な魅力を感じる。実に綺麗で透き通っていて、深い池は神がかり的な青味を出している。その神秘の水の池を初めて見るミーサは写真を撮りまくっている。



【忍野八海の中池】

そういえば富士山本宮浅間神社の境内にも湧水の池があって、綺麗な水が結構な量湧き出ているのを思いだした。

■富士山はキャンプがお勧め

富士山はかつて噴火を鎮めるために人々が拝んでいたが、やがてその行為が効いたのか沈静化され人々が登るようになって修行の場となり、芸術文化の源泉にもなった。そして今でもそれらは続いている。拝む人や絵を描く人の人数は分からないが、富士山の登山者の総数は毎年約 30 万人にもなる。この人数は 3000m 級の山の登山者としては群を抜いている。

そして最近では登山だけではなく、麓では様々なスポーツが行われており、スキー、ゴルフ、ハンググライダーなどは有名だが、私のお勧めは何と言ってもキャンプである。

私は家族を連れて、あるいは友人たちとは富士山周辺のキャンプ場には 100 回以上来ている。私のキャンプ歴は 350 泊くらいだが、少なくとも 1/3 は富士山周辺でキャンプしている。それほど富士山麓でのキャンプは私のキャンプ人生の中核にあり、私にとってはある意味“信仰の場”かもしれない。

白糸の滝の近くの田貫湖キャンプ場にやって来る。

田貫湖は本栖湖の南、直線で約 12km の所にあるので富士五湖の一つと間違えるような位置にある。しかし富士五湖で一番小さい精進湖よりも少し小さいのでその存在さえもあまり知られていない。もちろん同行の 3 人は名前さえも知らなかったと言っている。

そもそも富士五湖という呼称は山梨県が県の観光振興のために付けたものなので、静岡県の田貫湖は富士五湖に入れてもらえるはずもない。

キャンプ場は田貫湖の湖畔にあって自然の起伏をそのまま残した芝生の綺麗なテントサイトが魅力で、ファミリー層を中心に人気がある。同行の3人はこのロケーションに非常に感激している。残念ながら富士山は厚い雲のために姿をみせていない。

田貫湖を有名にした理由は“日の出のダイヤモンド富士”が見えるからで、日本ではここで見ることができない。ダイヤモンド富士の正式な定義は、富士山の山頂から陽が出て、それが湖面に映る逆さ富士の山頂にもあって、両方の山頂から陽光が射している様子がダイヤモンドの輝きに似ていることからそう呼ばれる。田貫湖は富士山のほぼ西に位置しているから生じる現象で、山中湖では夕陽のダイヤモンド富士が見ることができる。



【田貫湖キャンプ場】



【田貫湖と参加メンバー 後ろの富士山は見えず】

田貫湖から近い富士山麓のただっ広い平原をテントサイトにした「ふもとつばらキャンプ場」にやって来る。

昨今のキャンプブームではよくテレビに登場するキャンプ場で、テレビ撮影が多い理由はテントサイトに車が自由に乗り入れられることにも起因している。とにかく広大な原っぱがあって、その前に大きな富士山がドカンと立っているのが特徴のキャンプ場だ。富士の麓の原っぱなので「ふもとつばら」とは安易なネーミングだが、よく言い表している。

しかしここでも雲に隠れて富士山を見ることができない。私はそのことで3人には平謝りをするが、天候ばかりは致し方ないと慰めてもらえる。私の経験では11月から1月が富士山を綺麗に見ることができる最も良い季節で、計画には自信があったが、自分の運の無さがっかりする。



【ふもとつばらキャンプ場 以前来た時に撮った写真で今回の景色ではない】

本栖湖にやって来る。本栖湖の浩庵キャンプ場は私が最もたくさん来ているキャンプ場で、とにかく富士山が綺麗に見える。このキャンプ場もドラマやCMによく使われる。

千円札の裏面の富士山の写真はこの場所から撮ったものだと3人に説明すると、チーマはあわてて財布から千円札を取り出している。残念ながらまたしても雲に隠れて富士山は拝めないが、富士山があるであろう本栖湖の景色と千円札を見比べながら、まさにここだと感激している。

第二章 石和温泉に泊まる

■1 泊目

今回の旅行は2泊とも石和温泉に泊まる。理由は簡単で石和温泉のある笛吹市が観光支援のために最大1万円の宿泊費の補助をしているためだ。従って普段はあまり泊まることのないような高級宿「竹林庭 瑞穂」を1日目の宿とした。

この宿は鉄筋コンクリート2階建ての母屋だが、内装は和風の雰囲気を出しているため木造建築かと勘違いしてしまう。部屋は広く、寝室以外に部屋がいくつもある。それゆえ案内してくれた仲居がいなくなると私たちは探検を始める始末だ。男組の部屋は次の間や茶室までも付いていて、大きな古代檜の幹をくり抜いた内風呂、トイレは大便秘器以外に小便器もありこれは珍しい。鳩さんはアルコールやジュースが入っている冷蔵庫を見て、最近では珍しいと言って感激している。女組の部屋は少し違う構造になっているが、いくつかの部屋があって内風呂は檜を漆塗した浴槽になっている。



【部屋から見た竹林庭瑞穂の庭】

旅の疲れをとるために早速大浴場に行って温泉に浸かる。お湯は石和温泉なので美肌の湯と呼ばれるアルカリ泉、自然湧出量が日本第4位で湧出温度 47℃位なので当然源泉かけ流しだ。

食事はもちろん部屋食になっている。

宿に着いて部屋に案内された時に「夕食で何か飲みますか？」と仲居から聞かれたので、私は「結構です、実は美味しいワインを持参したので食事の後で飲みます」と答えると、仲居は「それではワイングラスを4つ用意しておきます」と言っていた。そしてテーブルにはワイングラスが用意されている。鳩さんは「宿代が高いからアルコールで儲けようとしなくていいね」と言っている。

テーブルにはもちろん豪華な料理が並んでいる。松茸の土瓶蒸し、とろけるようなトロマガロ、甲州牛の陶板焼きは実に柔らかい。料理もさることながら、割りばしの箸入れに「植木様」という名前が書かれていることには恐れ入ってしまう。

宿自慢の竹林の庭を眺めながらの食事はもはや文句のつけようもない。

朝食も目を見張るような豪華な料理が出てくる。安宿ならばこれが夕食だと言っても誰もが信じるだろう。



【竹林庭瑞穂の朝食 箸入れに植木様の文字】

■2 泊目

2 泊目の「ホテル花京」は鉄筋コンクリート製の6階建てのビルで、石和温泉にはよくあるタイプの宿になっている。

石和温泉は1961年（昭和36年）に突如温泉が湧きだして、ぶどう畑が青空温泉に化して地元の人々が温泉を楽しんでいる様子が報道された。そのためにそれ以降、主に昭和40年代に建てられたホテルが建ち並び、昔ながらの温泉街や古い温泉宿は存在しない。

このホテル花京もその頃にできたものらしく、大浴場もビルの中であって後付けしたような露天風呂が印象的だ。さすがに1泊目の宿を比べると見劣りするのはやむを得ないだろう。

■石和温泉のワイナリー

石和温泉とその周辺にはワイナリーがたくさんある。

その中でも温泉街の中であって宿から歩いて行けるワイナリーが2つあり、私たちは試飲を目的にその2つのワイナリーを訪れる。とはいうものの私も含め試飲を超えて“本飲”になる勢いで飲んでいる。こんな呑兵衛たちを連れて来て申し訳ないと思っていると、3人は土産にワインをたくさん買い込んでいるからその心配は無用だったようだ。

第三章 山梨県の歴史、現在そして未来

■甲斐の国の歴史を物語る

甲斐善光寺を訪れる。重厚で立派な寺だが、この寺は戦国時代の戦の末に生まれた産物で、決して長野の善光寺の出先の寺ではない。

飛鳥時代よりも少し前の538年に百済から仏像が贈られたことから日本の仏教は始まるが、その仏像は蘇我氏と物部氏の争いの中で池に捨てられた。その捨てられた仏像を「本田善光」という人物が見つけて、自分の出身地に持ち帰り寺を建てた。その寺が信濃の国にあって現在の長野の善光寺になる。

ところが川中島の戦いで信濃に出陣した武田信玄がこの仏像を持ち帰り、自国に寺を建て安置したのがこの甲斐善光寺だ。だから、それにふさわしい造りをしており、重厚感がある。

仏像は武田家滅亡により信濃の善光寺に戻ったが、武田家が滅ぼされなければ甲斐善光寺が本家の善光寺を名乗り、長野の方は信濃善光寺とでも呼ばれていただろう。

歴史とは勝者によって作られる。



【甲斐善光寺の本堂】

■ぶどう寺

甲州市勝沼にある大善寺にやって来る。

この寺は「ぶどう寺」と呼ばれており、本尊の薬師如来が手にぶどうを持っていることでそう呼ばれる。奈良時代初期の718年に開かれ、以降は平清盛、源頼朝、北条貞時などによって寄進され守られてきたという。

紅葉真っ盛りの木々が両側に立ち並ぶ階段を150段登っていくと、国宝の薬師堂が目の前に現れる。さすがに国宝だけあって重厚な造りで何とも言えない風格がある。



【150 段の階段 写真は上から撮った】



【国宝の薬師堂】

そして薬師堂には確かにぶどうを手にした薬師如来像がある。一般的には本尊は非公開なので、おそらくレプリカだろうが、この寺からこの地域でぶどう造りが始まりワイン造りに至ったようだ。そのことを裏付けるように、この寺の住職自らもワインを造っており、寺の売店で販売している。さらに寺の隣には「ワイン民宿大善寺」を作ってこの寺が経営している。まさしくぶどうとワインに染まった寺だ。

しかしワインだけではないようで、住職の話では最近では若い人たちも多く参拝に来ているという。それはテレビドラマ「逃げるは恥だが役に立つ」の撮影がこの寺で行われ、薬師堂と受付のある畳の喫茶室で撮影されたという。

ミーサとチーマはその話を聞くや否や、その場所やポスターの写真を撮りまくっている。



【ドラマ“逃げ恥”の撮影場所 喫茶室の座卓】

この寺はいろいろな歴史の転換点にも遭遇しており、敗者の歴史もある。

武田勝頼が織田徳川連合軍との最後の戦いの前にここ大善寺で戦勝を祈願して一夜を明かした。しかし形勢は武田軍には不利で部下たちが次々に脱走をはかり、追い込まれた武田勝頼はその数日後に自決して武田家は滅亡した。

新選組の近藤勇らは新政府軍との戦い備えて大善寺に入ろうとしたが、この寺は徳川家に縁があり寺宝も多くあるという理由から寺に本陣を置くのを諦め、山門前から細長く陣を配置したという。そして戦いに敗れて江戸に敗走することになる。

■本物の列車トンネルのワイン倉庫

「勝沼トンネルワインカーブ」にやって来る。ワインカーブとは自然の洞窟などを利用してワインを貯蔵するものだが、ここは廃線で使われなくなった旧国鉄のトンネルを利用している。そのためトンネルワインカーブと呼ばれている。トンネル入口にはワインカーブ駅舎という管理施設があり、ありがたいことに管理人がトンネル内で説明してくれる。

管理人の話では、このトンネルは1903年（明治36年）に建造された深沢トンネルで、レンガ積みの1100mのトンネルは鉄道文化の遺産としても貴重で、年間を通じて温度は13℃前後に保たれており、ワインの長期保存に最適な条件だという。

入り口から約200mまでは一般人用のワイン棚があって、その先は業者用のエリアで約900m続いている。約100万本を貯蔵することができるというから凄い。



【トンネルワインカーブの中】

それにしても廃線のトンネルがこのような第二の人生を送っているというのはあまり見たことがない。普通ならば埋められるか閉鎖されて朽ち果てるのを待つだけなのに、静かな余生を送りながら人々の役に立つというのはトンネルにとっても有意義な老後になっているようだ。

さらにこの施設は甲州市が管理しており見学料が無料なのもありがたい。

ワインを預ける費用を聞くと棚一つで年間5万円ということで、一つの棚には約300本入るといふ。問題は現在200人くらい待っている人がいて、申し込んでもいつになるか分からない。

■フルーツ公園とその周辺

山梨県は桃とブドウとスモモの生産高が日本一、そしてサクランボ、キウイフルーツ、カリンなども上位にランクしており、その他にも多数のフルーツ栽培が盛んなフルーツ王国だ。そのフルーツ王国を象徴するような「笛吹川フルーツ公園」にやって来る。

鳩さんは2年前にも私と来ているのでそうでもないが、ミーサとチーマはこの公園の凄さに圧倒されている。

公園は標高600m程の山の斜面に作られた広大な施設で面積32.2haということで、おおよそ400m×800mになる。その広い公園の中には各種果樹園と芝生が広がっており、施設としては、わんぱくドーム、フルーツ広場、くだもの工房という3つの大きなガラス張りの全天候型のドームがあり、アクア・アスレチック、フルーツ・アドベンチャー、遊具広場など子供たちが遊ぶのに全く困らない。

公園からは甲府盆地の街並みが眼下に見える。盆地なので山に囲まれているが、晴れていればその山の向こうには富士山が見える。

昔から言われている日本三大夜景は函館、神戸、長崎だが、ここから見る夜景が新日本三大夜景に選ばれている。ちなみに残りの2つの夜景は若草山（奈良）と皿倉山（北九州）になる。



【新五本三大夜景のフルーツ公園から見る甲府盆地 今回の撮影ではなく以前撮影したもの】

何といっても驚くべきことはこれらの施設は全て無料で、公園の入園料も駐車料金もかからない。これにはミーサは大きく反応して、信じられないと言っている。

ついでにフルーツ公園から少し登った所にある「ほったらかし温泉」と「ほったらかしキャンプ場」訪れる。フルーツ公園より100mくらい標高が高いので景色はさらに良い。

“ほったらかし”というユニークな名前だが、決してほったらかしていない。昔はともかくも今は大きな駐車場も作り、施設もどんどん拡充している。このキャンプ場も人気があつて予約が取れない。それはキャンプをしながら夕焼け、夜景、満天の星空、日の出を楽しむことが出来るからで、キャンプ350泊の私にしてもあまり経験のないロケーションである。



【ほったらかしキャンプ場 以前来た時の写真】

お昼はフルーツ公園から降りたところにある“吉田のうどん”の人気店「たけ川うどん山梨店」で食べる。

富士吉田市が吉田うどんの中心地だが、1年前にフルーツ公園のある山梨市に支店を出して繁盛しているという情報を地元に住む知人から得たので今回の旅のルートに入れていた。

山梨県の伝統的な粉食料理には吉田のうどん以外にホウトウがある。ホウトウは麺よりも野菜の量が多い料理で日常的に食されていた。それに対して小麦粉だけを多量に使う吉田のうどんは外食または何かの祝いの食として出されていた。つまりホウトウは“ケ”で、うどんは“ハレ”の料理というわけだ。それは今ではちょっと信じられないことだが、その理由は、富士山北麓は寒い上に火山灰や溶岩が多く稲作が困難で麦作が行われていた。従って貴重な小麦粉だけの吉田のうどんの方が、野菜で水増ししたホウトウよりも格上だったということらしい。

とにかく腰のある麺で、腰の強さで有名な讃岐うどんと勝負をするほど腰が強い。ただし讃岐うどんは麺の表面が柔らかくツルツとしていたのに対して、吉田のうどんは表面も粗削りの感じがすることが大きな違いだろう。たけ川の麺ももちろんその食感で、出し汁は醤油に味噌が混ざったようで真っ黒なのも讃岐うどんとは全く違う。

■昇仙峡

昇仙峡は石和温泉から少し離れているが、鳩さんは87年の人生で一度も行ったことがないということなのでコースにいれた。

しかしチーマは1週間前に行ったばかりだと言っており、いささか申し訳なさそうに鳩さんがチーマに謝っている。彼女はそれを全く気にしないで「下見して来ましたから」とさりげなく言っている。そして私は40年ぶりの訪問になるが、当時のことは全く覚えていない。

私たちはまず高い場所に行ってみようとロープウェイに乗り山頂駅に着く。本来は大パノラマが見えるはずなのに残念ながら雲で視界が悪い。というよりも本日は朝から雨の天気予報なのに何とか持ちこたえていることに感謝しているような状態だ。

先週ここに来たチーマが、その時に撮った富士山がバッチリ映った写真を見せてくれる。

昇仙峡は川によって削り取られ露出した巨岩や奇石の造形美が有名だが、じっくり見るためには1時間ほど遊歩道を歩かなければならず、時間や雨模様ということで仙娥滝（せんがたき）を見て早々に引き上げる。巨岩や巨石の造形美は車窓からの見物になった。



【昇仙峡の巨岩】



【仙娥滝】

昇仙峡は山梨を代表する渓谷で人気の観光地だ。そのため「日本遺産 (Japan Heritage)」に認定されており、その看板がある。

この日本遺産という言葉は最近よく目にする。世界遺産の日本版というイメージがあるがポータルサイトで調べてみるちょっと違うようだ。日本遺産とは文化庁が認定している制度で、地域の有形・無形の文化財群を総合的に捉えてその歴史的魅力や特色をストーリーにして評価している。文化財指定はその保護が目的だが、日本遺産はその地域に点在する遺産を「面」として活用し発信することで地域活性化を図ることを目的としている。

2015 年から始まって現在まで 104 件が登録され、私の出身地の群馬県桐生市付近も最初の頃に「かかあ天下ーぐんまの絹物語」として登録されている。

そしてここ昇仙峡は「甲州の匠の源流・御嶽昇仙峡～水晶の鼓動が導いた信仰と技、そして先進技術へ～」で 2020 年に登録された。

ポータルサイトを見ていると各地域の文化財・名所・伝統を面として捉えてストーリーを作っているのが国内旅行に行く場合は意外に参考になるかもしれない。

■リニア見学センター

山梨県で未来といえば、やはりリニアモーターカーだろう。大月 IC から車で約 10 分のところに「山梨県立リニア見学センター」がある。この施設の見学を私は今回の旅行のひとつの目玉にしていた。

リニアモーターカーは 1962 年に研究が始まり、1997 年に実験線を宮崎から山梨に移した。その実験線を生かしてリニア中央新幹線が 2027 年に東京-名古屋間は開業予定になっている。それはもうあと 6 年とのことだから驚いてしまう。

鳩さんは「それまで生きていないよ」などと言っている。私は「それなら冥土の土産のためにしっかり見ておきましょう」と館内に入る。



【リニアモーターカーの昔の実験車両】

私たちはまずは紹介ビデオを見る。そしてこのビデオが実に良くできている。

リニア中央新幹線が開業すると、その中心は東京でも大阪でもなく山梨県になるという。その理屈は東京の山手線や大阪の環状線は約 1 時間でその都市圏内を一周する。つまり都市圏の定義は約 1 時間ということにしており、リニア開業によって東京-大阪間は 67 分で結ばれるから東京も大阪も名古屋も含めたひとつの大都市圏が誕生する。そしてそこには山梨県も入っており、それも中心にあるのだから山梨県がその大都市圏の主役になるという。まるで日本遺産のストーリーのようで、実にうまいところに着目しており、何故か説得力が感じられる。少なくとも私は十分に感化されたようだ。

今回の来館の第一の目的はリニアモーターカーの走行試験を見ることで、約 42km の実験線を時速 500km で往復するので、おおよそ 10 分間に 1 回くらい目の前を通過する。

ところが目にも留まらぬ速さとはこのことで、わずかな振動と轟音と共に本当に一瞬で通り過ぎて行く。さすがに時速 500km は半端でないスピードだ。そのスピードにも驚くが、圧倒的な科学技術の力を目の当たりにして感動や感激はもちろんのこと、元技術者の私は武者震いのようなものまで感じる。技術者になること夢見ていた少年時代に戻り、こんな仕事をしてみたかったという少年の日の夢を思い出してしまった。

せっかくなので何度も写真に収めようとチャレンジするがなかなか上手く撮れない。チャレンジすること数回、何とか納めることができた。



【時速 504km で走行中の本物のリニアモーターカー 窓ガラス越しで映り込みがある】

館内にはリニアモーターカーの歴史や原理の説明が分かり易く説明展示されており、修学旅行の生徒たちが多く来館している。その修学旅行生や家族連れに混じって私たち中高年カルテットも真剣に見学している姿に私はまたしても感激してしまう。

夢のような科学技術には老若男女問わず誰もが感銘を受け、そしてもっと知りたいという気持ちになるのだろう。

終章 旅の記録

■温泉評価委員会

私は温泉宿を評価する温泉評価委員会、通称「おひょい」を立ち上げている。それは温泉宿に泊まった時に組織される勝手気ままな委員会で、委員は同行した人になる。何が良かったとか悪かったとか、あれこれ話し合っって各項目を 5 段階で評価し、委員会として評価値を算出する。ただし今回は私のみで評価した。

評価の基準は、5は驚き感動、4は普通に良い、3は可もなく不可もない、2は普通に悪い、そして1は失望落胆としている。

総合点（平均値）で5段階の75%、つまり3.75をオススメの目安としている。特に4.00を超えるには驚き感動が少なくとも1項目以上あるからオススメ度は高い。

「竹林庭 瑞穂」は泉質4、風呂4、料理5、コスパ3、サービス4、建物・部屋4、立地環境4、総合点4.00になった。コスパは笛吹市宿泊割がない場合の評価とした。

泉質は低張性アルカリ泉、pHは9.1、湧出温度は45.7℃となっている。

「ホテル花京」は泉質4、風呂3、料理4、コスパ3、サービス3、建物・部屋4、立地環境4、総合点3.57になった。コスパは笛吹市宿泊割がない場合の評価とした。

泉質は低張性アルカリ泉、pHは9.1、湧出温度は45.9℃となっている。

■旅の記録

実施は2021年11月21日（日）～23日（火・祝）の2泊3日、その行程を以下に示す。尚、本文の順番と実際の順番とは異なっている部分もある。

- ・1日目 神奈川県大和駅南口に9時に集合し、車で綾瀬スマートICから東名高速に入り、浅間神社の総本山「富士山本宮浅間神社」、富士講の起点「村山浅間神社」を参拝、御神体が富士山という「山宮浅間神社」、昼食はコンビニエンスストアのイトイン富士講の開祖の長谷川角行が修行した「白糸ノ滝」、ダイヤモンド富士の「田貫湖」、人気の「ふもとつばらキャンプ場」、長谷川角行が修行入滅した「人穴富士講遺跡」、「本栖湖」、「精進湖」を見物して石和温泉の「竹林庭 瑞穂」にチェックイン
- ・2日目 宿を9時30分に出発し、「昇仙峡」を見物しロープウェイ乗車、「甲斐善光寺」参拝、「笛吹川フルーツ公園」散策、吉田のうどんの「たけ川うどん山梨店」で昼食、国宝の薬師堂がある別名ぶどう寺「大善寺」参拝、「勝沼トンネルワインカーブ」見学、石和温泉街のワイナリー「モンデ酒造」と「マルス山梨ワイナリー」で試飲、石和温泉の「ホテル花京」にチェックイン
- ・3日目 8時45分に宿を出発し、「山梨県立リニア見学センター」を見学、「忍野八海」見物、忍野八海の土産物店で「じゃがバター揚げ」で昼食、「河口湖」経由で帰路へ、大和駅15時に到着し解散

4人分の総費用は130613円、ひとり当りは32653円になった。その詳細を以下に示す。

- ・宿泊費 104000円（全て4人分）
 - 竹林庭 瑞穂 67800円（4人分 笛吹市宿泊割引 40000円適用後
ひとり当り 16950円）
 - ホテル花京 36200円（4人分 笛吹市宿泊割引 20000円適用後
夕食のワイン 2800円含む ひとり当り 8550円）
- ・昼食と飲み物代 6773円（全て4人分）
 - 1日目の昼食 3175円（コンビニで買った飲み物とサンドイッチなど）

2 日目に昼食	1750 円	(たけ川山梨店で食べた吉田のうどん 4 食)
3 日目の昼食	1200 円	(忍野八海で食べたじゃがバター揚げ 4 個)
部屋での飲み物	1303 円	(ワイン 2 本、ソフトドリンク 2 本)

・ 入場料など 8880 円 (全て 4 人分)

昇仙峡ロープウェイ	5200 円	(1300 円×4)
大善寺	2000 円	(500 円×4)
リニア見学センター	1680 円	(420 円×4)

・ 交通費と駐車場代 10960 円 (全て車 1 台分)

白糸の滝駐車場	200 円
忍野八海駐車場	300 円
高速道路	4460 円 (休日割引適用後)
ガソリン代	6000 円